【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公表番号】特表2009-530365(P2009-530365A)
【公表日】平成21年8月27日(2009.8.27)
【年通号数】公開・登録公報2009-034
【出願番号】特願2009-500955(P2009-500955)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/235　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/23　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/231　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/232　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　39/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/18　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/16　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/37　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/92　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/08　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　17/04　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　36/18　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　36/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/235
Ａ６１Ｋ　31/23
Ａ６１Ｋ　31/231
Ａ６１Ｋ　31/232
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　43/00　１０７
Ａ６１Ｐ　39/06
Ａ６１Ｐ　17/18
Ａ６１Ｐ　17/16
Ａ６１Ｋ　8/37
Ａ６１Ｋ　8/92
Ａ６１Ｑ　19/08
Ａ６１Ｑ　19/00
Ａ６１Ｑ　17/04
Ａ６１Ｑ　19/02
Ａ６１Ｋ　35/78　Ｃ
Ａ６１Ｋ　35/78　Ｘ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月23日(2010.3.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１種のマグノリアシャンパカの花から得られるマグノリアシャンパカ油の調製方法であって、
－　少なくとも１種のマグノリアシャンパカの新鮮な花から生成した粉砕生成物から、少なくとも１種の非極性溶媒を用いて抽出する段階、
－　前記抽出物を少なくとも１つの分子蒸留段階に供する段階、および
－　蒸留物を回収する段階
を含み、それにより、前記マグノリアシャンパカ油が
－　２０から７０％の安息香酸エステル、
－　１５から３５％の飽和および／または不飽和脂肪酸
（前記比率はガスクロマトグラフィーにより分離された成分の合計に対する相対パーセンテージで表されている）
を含むようにする、マグノリアシャンパカ油の調製方法。
【請求項２】
請求項１に記載の方法によって得られうるマグノリアシャンパカ油。
【請求項３】
－　１０から４０％の安息香酸シンナミル、
－　５から３０％の安息香酸フェニルエチル、
－　５から３０％の安息香酸ベンジル、
－　５から３０％のリノール酸、
－　２から２０％のリノレン酸
（前記比率はガスクロマトグラフィーにより分離された成分の合計に対する相対パーセンテージで表されている）
を含む請求項２に記載のマグノリアシャンパカ油。
【請求項４】
老化または老化に関連する生理学的メカニズムまたはこれらメカニズムに関連する疾患による皮膚の有害な変化を防止および／または処置するための医薬用、化粧用または皮膚用組成物における多機能性活性成分としての請求項２または３に記載のマグノリアシャンパカ油。
【請求項５】
請求項２または３に記載のマグノリアシャンパカ油および化粧品または医薬品に許容できる媒体を含む化粧用、医薬用または皮膚用組成物。
【請求項６】
局所経路による適用に適している、請求項５に記載の化粧用、医薬用または皮膚用組成物。